



令和3年度

男女共同参画 社会づくりのための 菊池市民意識調査

調査結果報告書 概要版



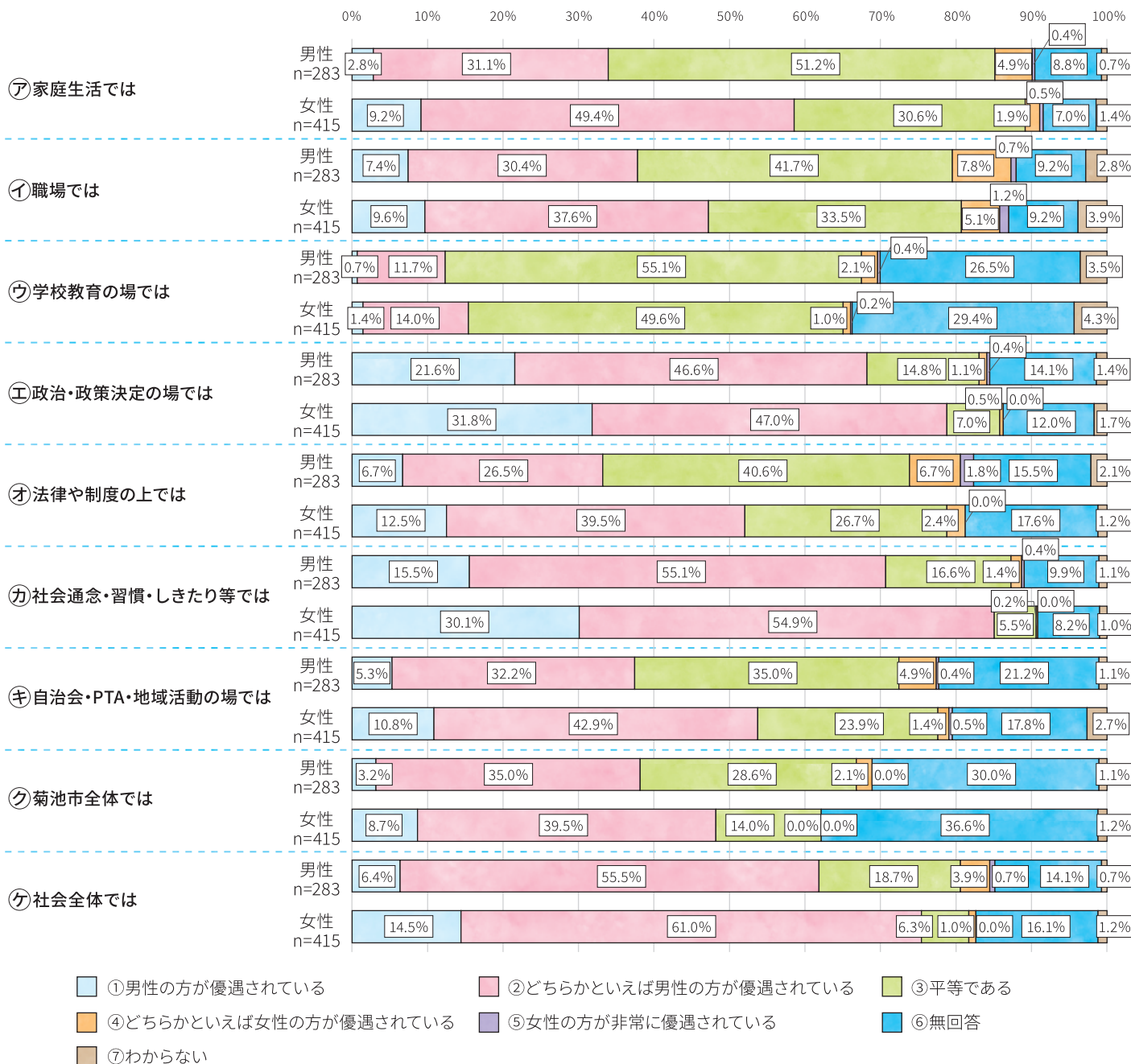
2022(令和4)年 3月
熊本県 菊池市

1 男女共同参画に関する意識について

○社会のいろいろな面において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

「男性の方が優遇されている」(①男性の方が非常に優遇されている ②どちらかといえば男性の方が優遇されている の合計)との回答で、上位に挙げた項目

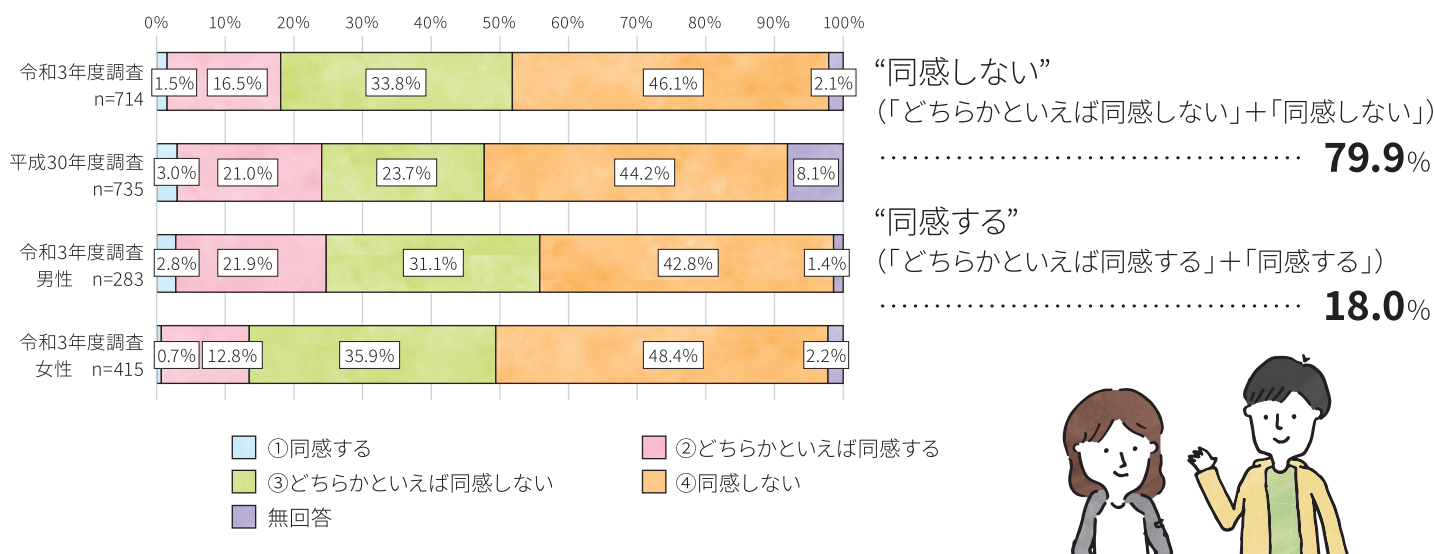
- 1 社会通念・慣習・しきたり等 ……女性**85.0%**、男性**70.6%**
- 2 政治・政策決定の場 ……女性**78.8%**、男性**68.2%**
- 3 社会全体 ……女性**75.5%**、男性**61.9%**



「学校教育の場」では男女ともに50%ほどの人が平等と回答していますが、「政治・政策決定の場」、「社会通念・習慣・しきたり等」、「社会全体」では平等と回答している人の割合は低く、『男性優遇』と回答している方の割合が高くなっています。

男性に比べ女性の方が『男性優遇』の割合が高く、『平等である』の割合が低くなっています。

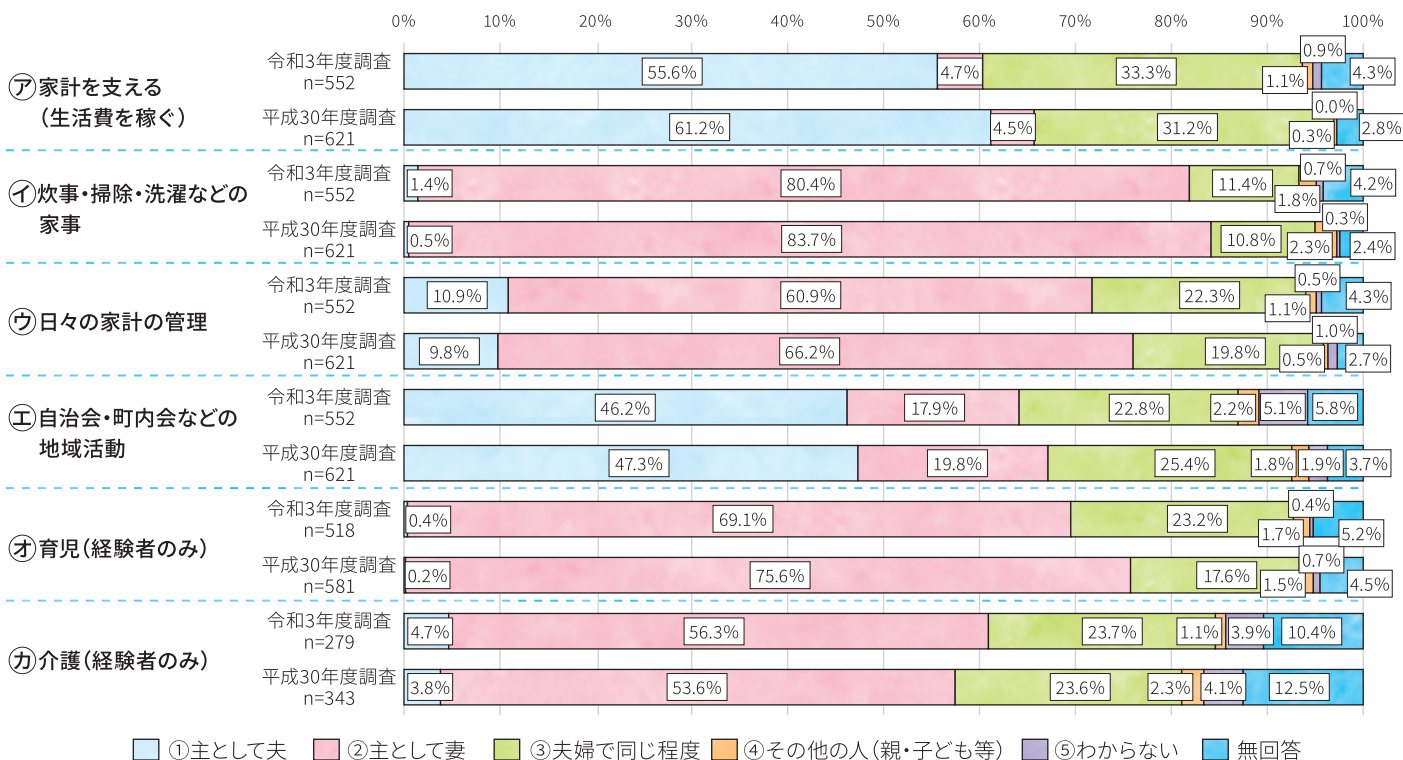
○性別によって役割を固定する考え方(固定的性別役割分担意識)について



“同感しない”(「どちらかといえば同感しない」+「同感しない」)は79.9%となっており、前回の67.9%を上回っています。

男女別では、男性と比較して女性の方が“同感しない”の割合が10ポイント程度高くなっており、年々改善はしているものの、男女間では現在でも意識に差があることがうかがえます。

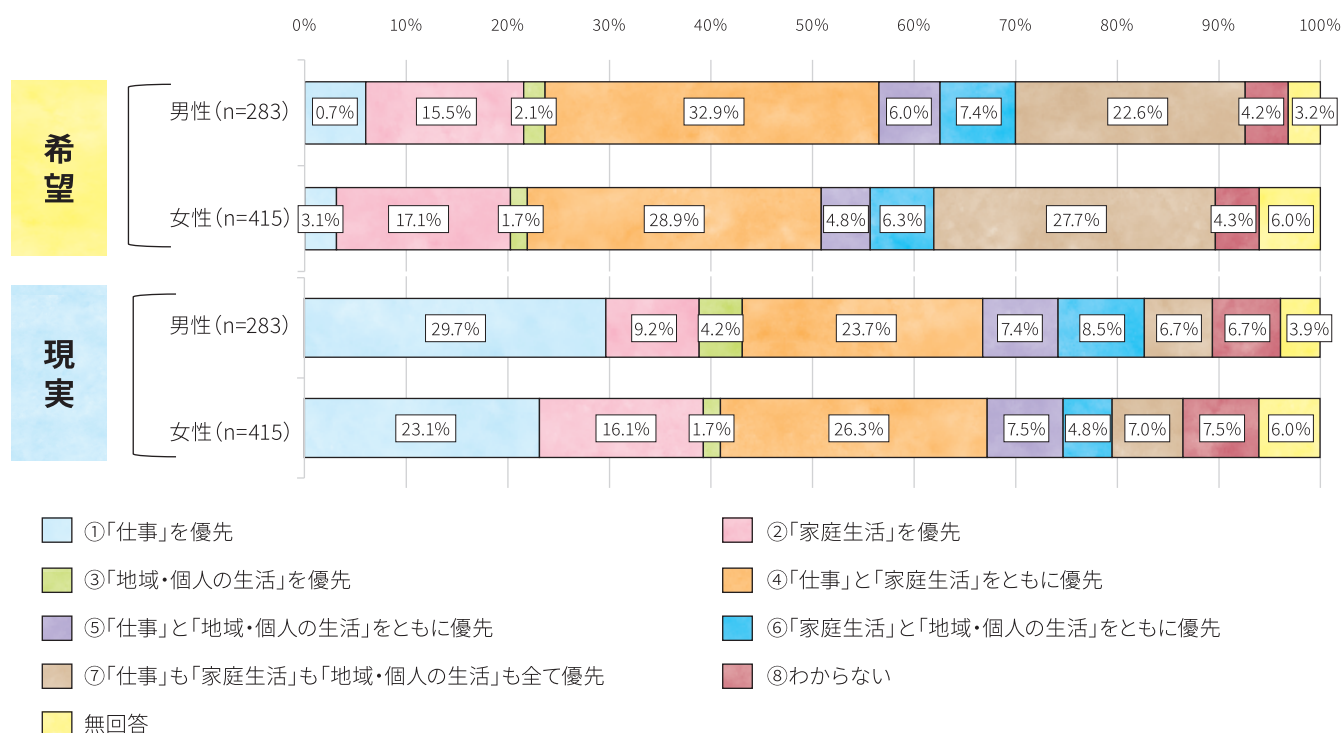
○家庭における役割分担について



「家計を支える」と「自治会・町内会などの地域活動」では主として夫の役割との回答が多く、他の項目については妻の役割との回答が多かったことから、依然として家庭における役割分担では妻の負担が大きいことがわかります。また、「育児」については、「夫婦で同じ程度」の割合が前回調査より5ポイント程度高くなっており、少しずつ男性の育児参加が進んできている状況がうかがえます。

2 仕事と家庭・地域生活の両立について

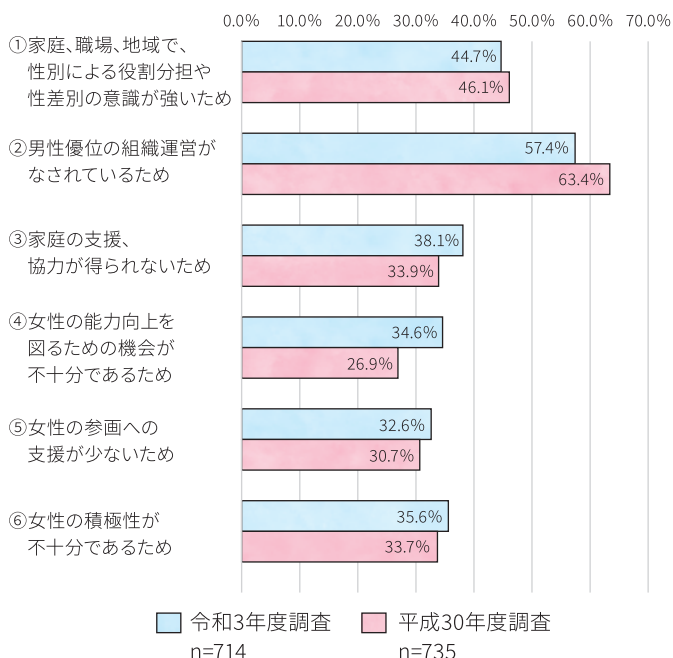
○あなたが生活を送るうえで、希望と現状について最も近いものをお答えください。



男女ともに「仕事を優先」と『「仕事」も「家庭生活」も「地域・個人の生活」も全て優先』においては大きな乖離がみられました。「仕事を優先」では、女性が“希望”3.1%に対して“現実”23.1%、男性が“希望”6.0%に対して“現実”29.7%となっています。

3 女性の社会参画について

○「政治や行政、職場などにおいて、企画立案や決定の場に女性の参画がいまだに少ない」といわれていますが、その原因は何だと思いませんか。



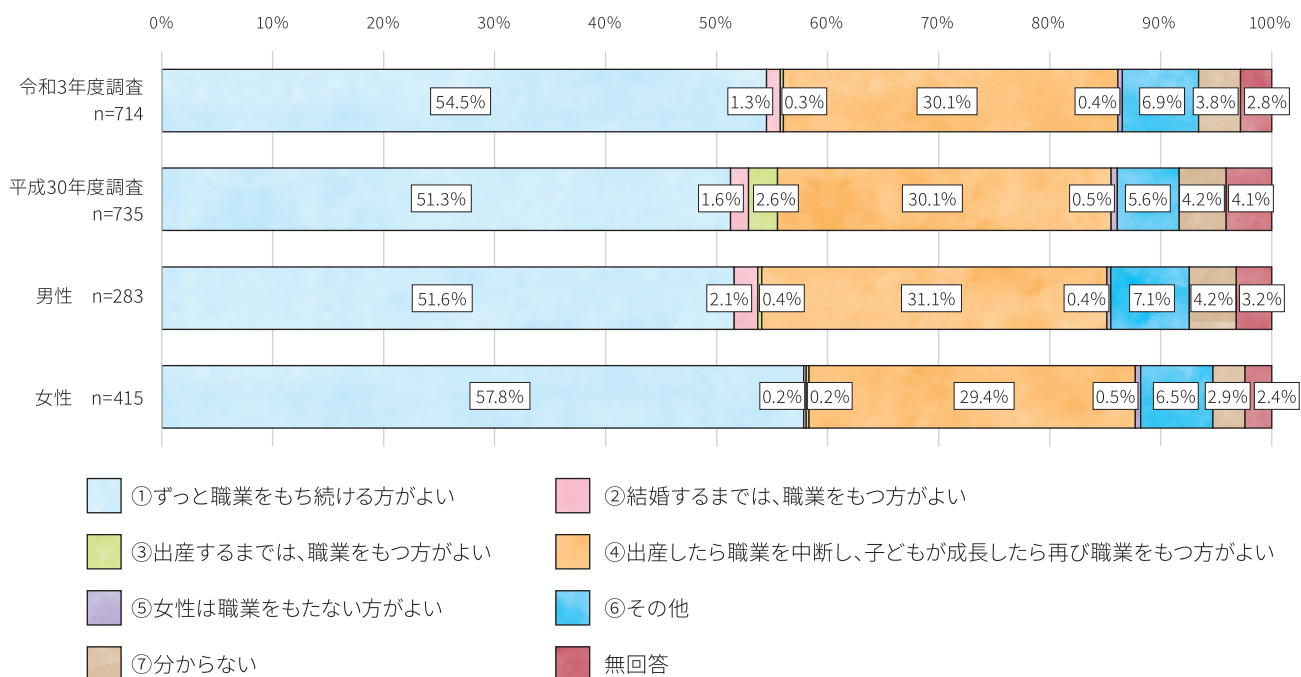
上位に挙がった項目

- 1 男性優位の組織運営がなされているため…………… **57.4%**
- 2 家庭、職場、地域で、性別による役割分担や性差別の意識が強い……… **44.7%**
- 3 家庭の支援、協力が得られないため…………… **38.1%**

「男性優位の組織運営がなされているため」の割合が最も高く、前回調査時と同じ傾向になっています。いまだに様々な場における性別による役割分担意識が強く存在することが課題として挙げられます。

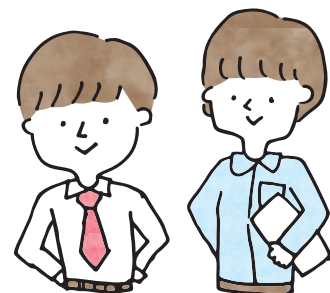
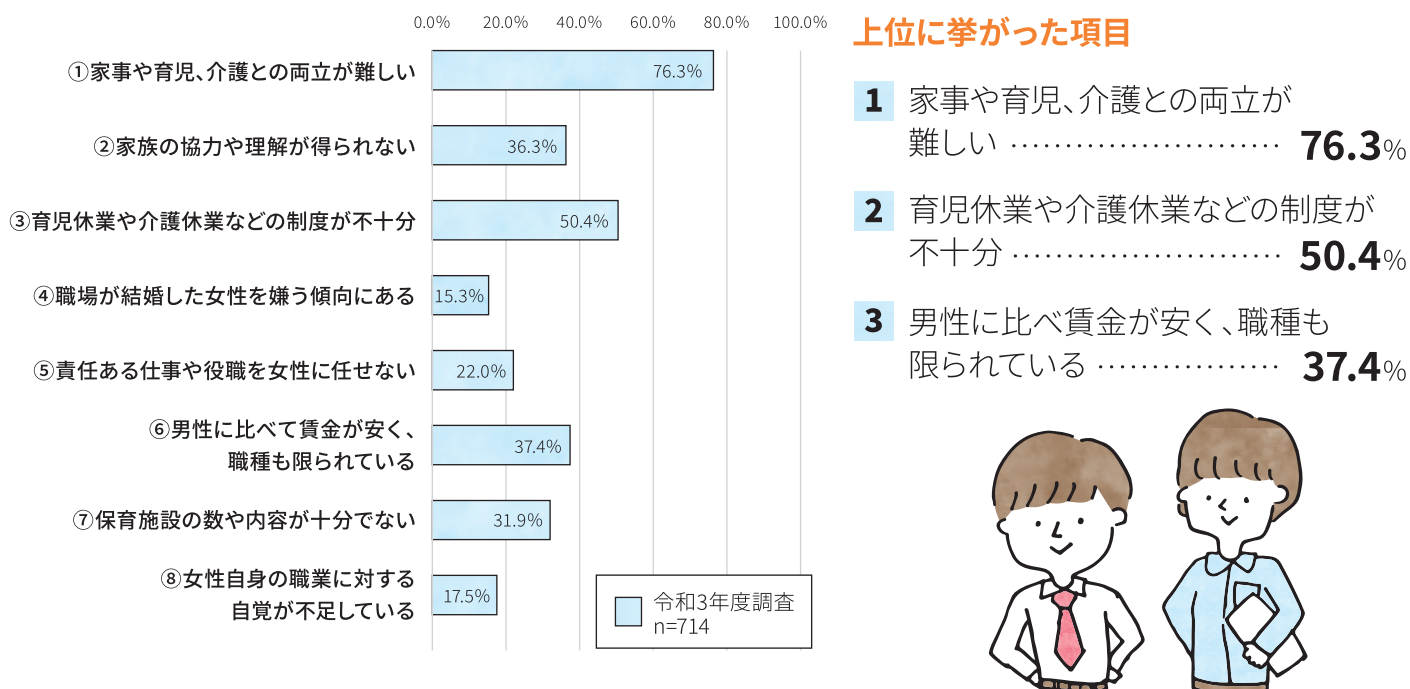
4 女性が職業を持つことについて

○女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。



女性が職業を持つことについては、前回調査と同様の傾向となっており、ずっと職業を持ち続ける方がよい、もしくは中断後に再就職するという回答が8割を占めています。男女別では、男性と比較して女性では「ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合が高くなっており、就業の継続について女性の意識が高くなっています。

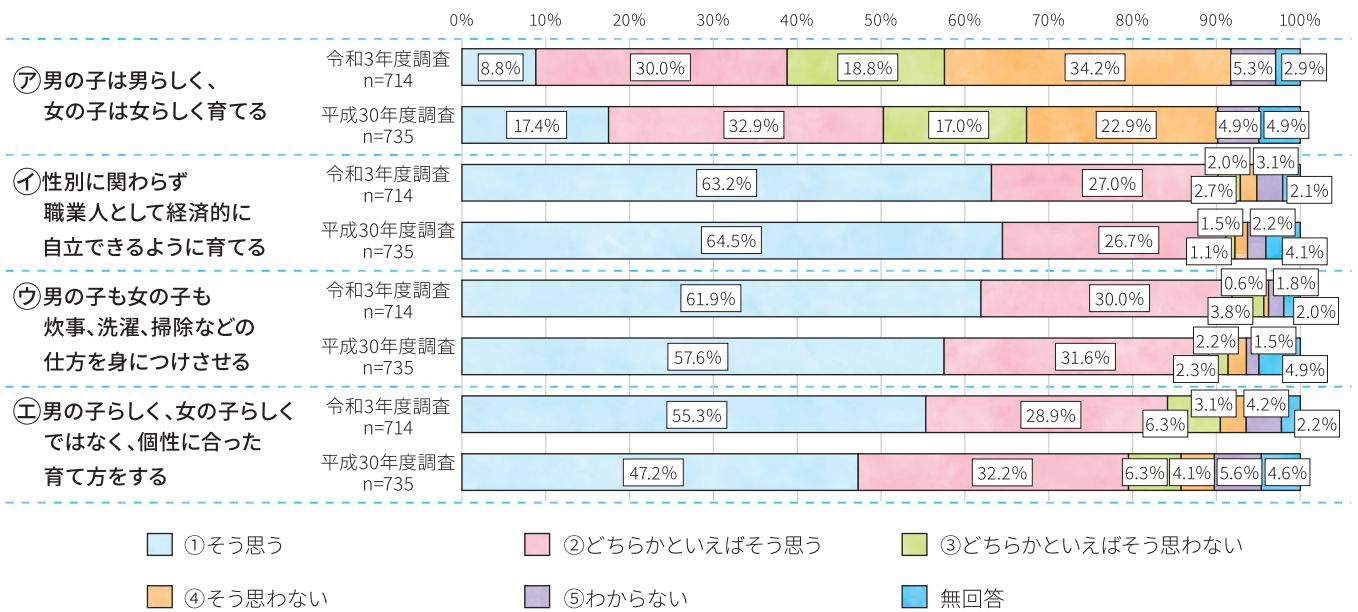
○女性が働き続ける上での問題について、あなたはどのように思いますか。



女性が働き続ける上での問題については「家事や育児、介護との両立が難しい」の割合が最も高く、いまだに家事・育児・介護など女性の負担が大きく、就業の継続について妨げとなっている様子が見えてきます。

5 子育て・教育について

○あなたは、子どもの育て方についてどう思いますか。

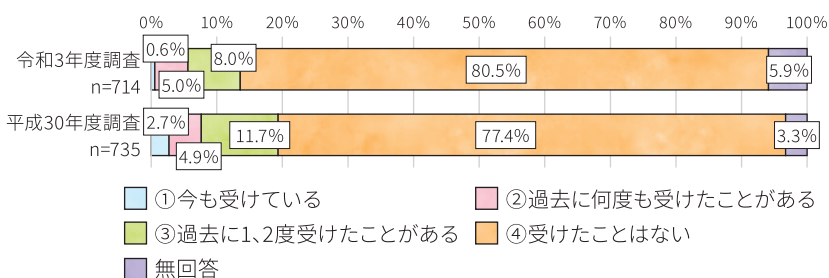


「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という、固定観念的に男女を区別した方針については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計が前回調査では50.3%であったのに対し、今回調査では38.8%と大きく減少しています。このことから、性別にとらわれない教育や育て方が主流となってきており、大人の意識も近年大きく変化してきていることが分かります。

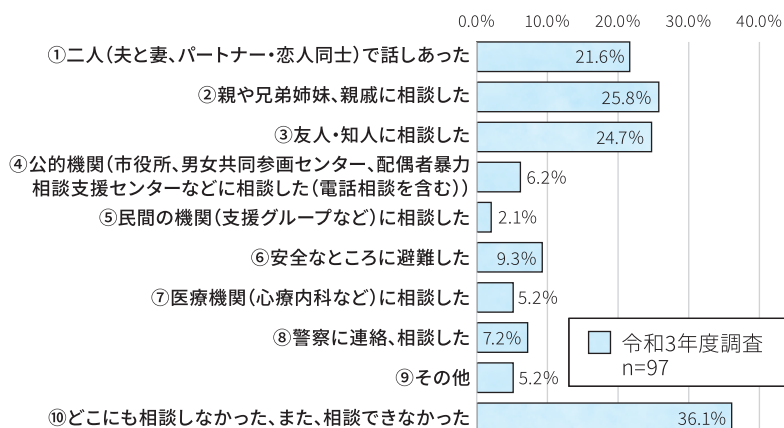
6 配偶者からの暴力について

○あなたは、あなた自身が恋人や配偶者から身体的暴力や心理的攻撃や性的強要などDVを受けたことがありますか。

被害の経験



被害を受けた後の対処

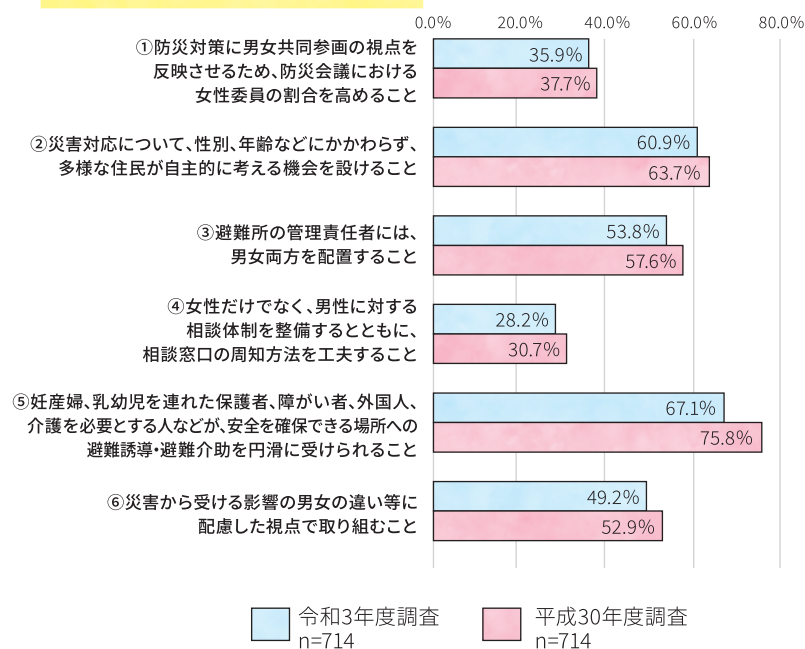


“経験がある”(「今も受けている」と「過去に何度も受けたことがある」と「過去に1、2度受けたことがある」の回答割合の合計)の割合は13.6%となっており、前回調査と比較して5.7ポイント低くなっており、少しずつ状況が改善している様子がうかがえます。

暴力を受けた後の対処については、「どこにも相談しなかった(できなかった)」が最も高くなっており、被害者がDVを受けたことを誰にも明らかにしないケースがいまだに多いことが分かります。身近な人に相談する割合は25%程度あるものの、公的機関等へ相談した割合は低い結果となっています。

7 防災の分野における男女共同参画について

○防災の分野における男女共同参画の推進に関して、どのようなことが必要と思いますか。



上位に挙がった項目

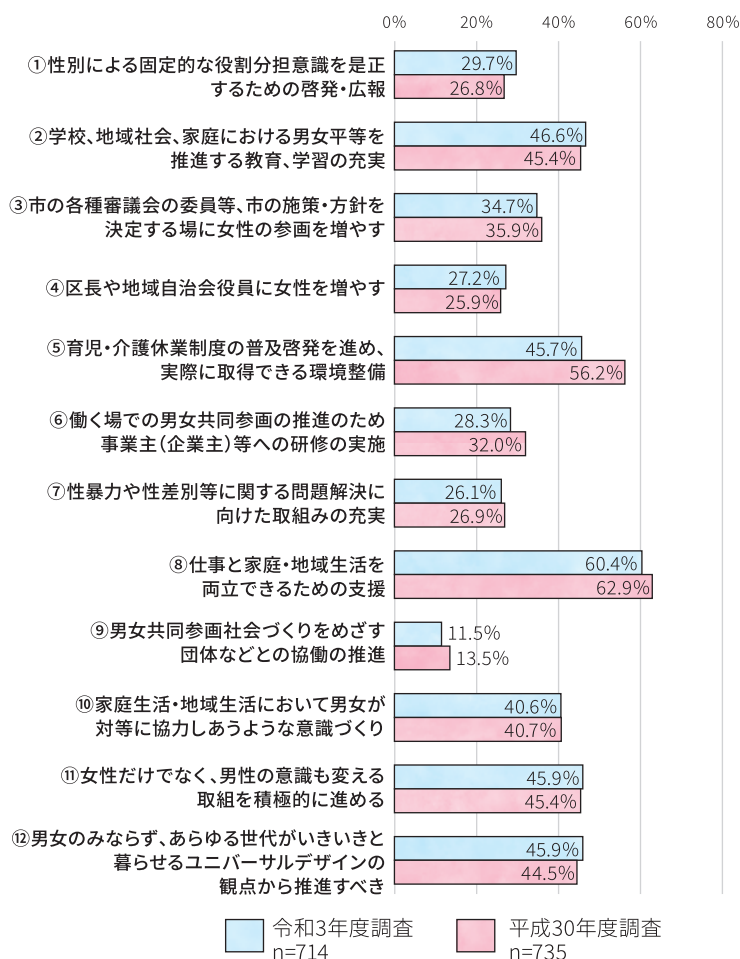
- 1 妊産婦、乳幼児を連れた保護者、障がい者、外国人、介護を必要とする人などが、安全を確保できる場所への避難誘導・避難介助を円滑に受けられること…………… **67.1%**
- 2 災害対応について、性別、年齢などにかかわらず、多様な住民が自主的に考える機会を設けること…………… **60.9%**

災害時に自力での避難が困難な人への支援について、女性の視点に基づいた取組が必要であるとの意見が多い結果となっています。

また、防災分野に女性の参画拡大を図っていくことが求められています。

8 男女共同参画社会の推進について

○男女共同参画社会の実現のために、菊池市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。



上位に挙がった項目

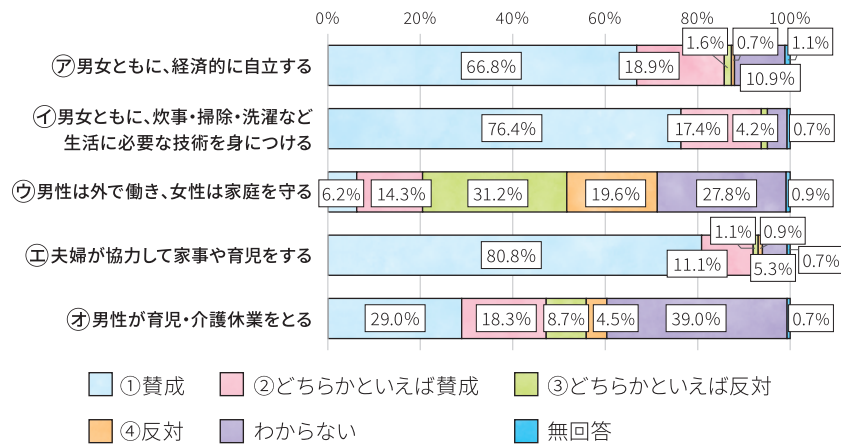
- 1 仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援…………… **60.4%**
- 2 学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育、学習の充実…………… **46.6%**
- 3 女性だけでなく、男性の意識も変える取組を積極的に進める…………… **45.9%**
- 3 男女のみならず、あらゆる世代がいきいきと暮らせるユニバーサルデザインの観点から推進すべき…………… **45.9%**

今回の調査においても、前回と同じく「仕事と家庭・地域生活を両立できるための支援」が最も高い割合となっており、ワーク・ライフ・バランスに関連する取組が求められていることが分かります。

また、「学校、地域社会、家庭における男女平等を推進する教育、学習の充実」の割合も高くなっており、未来の世代に向けた教育や地域社会、家庭への意識啓発が求められています。

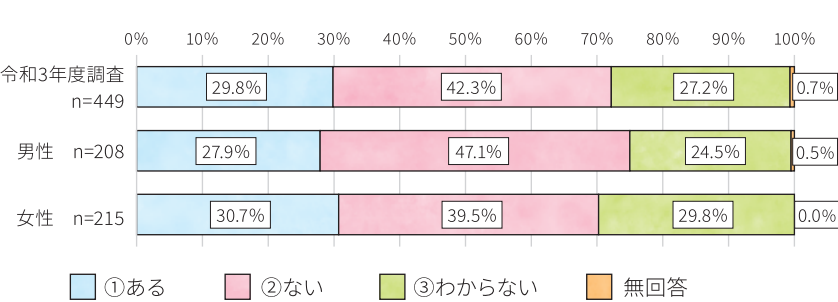
9 中学生に向けた意識調査について

○性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。

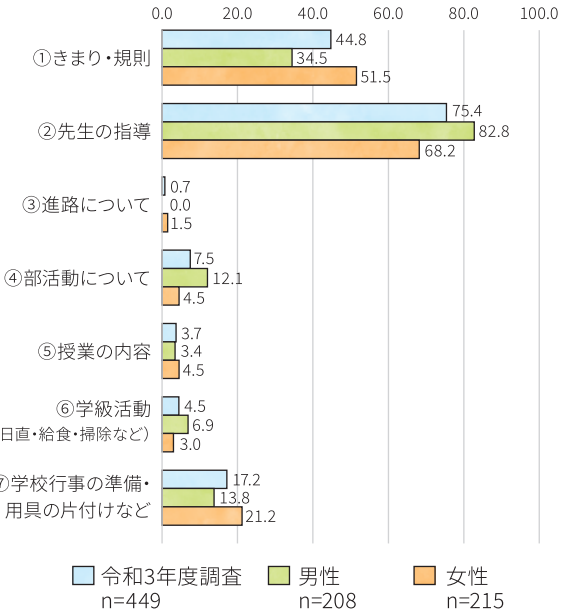


“賛成”（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の回答割合の合計）の割合では「男女ともに経済的に自立する」「男女ともに、炊事・掃除・洗濯など生活に必要な技術を身につける」「夫婦が協力して家事や育児をする」において9割を超えており、若い世代において“性別によって役割を固定する考え方”は少なくなっていることが分かります。

○学校の中での男女の扱いに違和感を感じた経験について



学校の中での男女の扱いに違和感を感じた経験では、全体で約3割が「ある」と回答しています。
その内容については、「先生の指導」と「きまり・規則」が高い割合となっており、従前からの指導方法・内容や規則に関して、生徒が違和感を覚えることがあると思われます。



■ 調査の概要

	一般市民向け調査	中学生向け調査
調査時期	令和3年5月～6月	令和3年4月～7月
調査対象者	市内在住の20歳から75歳の市民の方から2,000人を無作為抽出	菊池市内の中学3年生全員
調査方法	郵送による配布・回収及びオンラインによる回答	市内中学校で配布・回収
配布数	2,000件	468件
有効回収数(率)	714件(35.7%)	449件(95.9%)